

保険・年金 フォーカス

EIOPA による 2021 年保険 ストレステストの結果について(1) －EIOPA の報告書の概要報告－

保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1－はじめに

EIOPA (欧州保険年金監督局: European Insurance and Occupational Pensions Authority)は、2021 年 12 月 16 日に「2021 年 EIOPA 保険ストレステスト報告書 (2021 EIOPA Insurance Stress Test Report)」(以下、「今回の報告書」という)を公表¹した。

今後の複数回のレポートで、このストレステストの結果に基づく欧州保険会社の脆弱性と回復力に関する状況を報告する²。

まずは、今回のレポートでは、今回のストレステスト及び今回の報告書の概要について報告する。

なお、今回のストレステストの実施内容については、EIOPA が 2021 年 5 月 7 日に公表した「2021 年の保険ストレステスト」に基づいて、保険年金フォーカス「[欧州保険ストレステスト 2021 \(1\)－EIOPA が第 5 回目の EU 全体の保険のストレステストの実施内容を公表－](#)」(2021.6.9) 及び「[欧州保険ストレステスト 2021 \(2\)－ストレステストのシナリオ、ショック及びその適用の概要－](#)」(2021.6.14) (以下、「前回のレポート等」という)において報告しているので、適宜参照いただきたい。

2－今回のストレステスト及び今回の報告書の概要

この章では、主として、EIOPA によるプレス・リリース資料及び今回の報告書の「エグゼクティブサマリー (Executive Summary)」及び第 1 章の「導入 (introduction)」等に基づいて、今回のストレステスト及び今回の報告書の概要を説明する。

¹ <https://www.eiopa.europa.eu/media/news/eiopa-insurance-stress-test-shows-industry-resilience-also-reliance-transitional-measures>

² 今回の一連のレポートにおける図表等については、特に断りが無い限り、EIOPA の「2021 年 EIOPA 保険ストレステスト報告書 (2021 EIOPA Insurance Stress Test Report)」からの引用によるものであり、必要に応じて、説明のための数値の強調や翻訳等を行っている。

1 | ストレステスト及び報告書のポイント

EIOPA によるプレス・リリース資料によれば、今回の 2021 年保険ストレステストのポイントは、以下の通りとなっている。

COVID-19 パンデミックの深刻な経済的及び金融への影響にもかかわらず、欧州の保険業界は強力な資本水準でストレステストに参加した。

- ・堅牢なバッファーにより、参加者は不利なシナリオの衝撃を吸収することができた。
- ・演習の資本コンポーネントは、セクターの主な脆弱性が市場のショック、特にリスクフリーレートとリスクプレミアムの分離、いわゆるダブルヒットシナリオに起因することを確認した。
- ・保険業界は、市場や経済への悪影響に対処するためのツールを自由に使えることを実証した（リアクティブな経営行動）
- ・ソルベンシー II 規制の一部である長期保証措置は、深刻ではあるがもっともらしいショックの一部を吸収するのに役立ち、参加者のソルベンシー比率の低下を制限した。
- ・それにもかかわらず、ストレステストはまた、市場の一部が依然として、長期保証とは異なり、2032 年までに段階的に廃止される予定の移行措置に大きく依存していることを明らかにした。

また、ストレステストの流動性コンポーネントは、セクターの流動性資産の保有量が多いことを考えると、参加者の流動性ポジションはソルベンシーポジションよりも重要性が低いように見えることを示した。それでも、結果は、保険会社が予期しない流出をカバーするために、保有する現金だけに頼ることはできないことを示している。

2 | ストレステストの趣旨及び目的

2021 年の保険ストレステストは、EIOPA による欧州全体での 5 回目のテストである。EIOPA 規則に盛り込まれているように、欧州システミックリスク理事会（European Systemic Risk Board : ESRB）と協力してのストレステストの定期的な実施は、EIOPA の義務の一部となっている。

これまでのテストと同様に、全体的な目的は、不利な市場展開に対する欧州保険業界の回復力を評価することにある。EIOPA は、予測される市場状況の変化と保険会社にとっての潜在的なマイナスの影響に応じて、各演習の目標、範囲、シナリオを調整している。2020 年と 2021 年は、パンデミック発生を特徴とし、実体経済と金融市場にかつてないほどの不確実性がもたらされた。保険会社のソルベンシーと流動性の状況は、危機の進展を反映していた。これを受けて、監督当局は、監視を強化し、保険業界及びその他の金融システムに対する悪影響を防止するために、ミクロ及びマクロプルデンシャルの観点から行動をとった。

このような背景の下、2021 年のストレステストでは、「合否判定テスト (pass-or-fail test)」ではない性格を維持しつつ、長期の低金利環境下での COVID-19 危機の不利な進展の下で、資本と流動性の観点から欧州保険業界の回復力を評価することを目指した。

2021 年に適用された方法論は、ミクロプルデンシャルな次元を維持しつつ、保険業から他の部門への波及効果を推測することを可能にするマクロプルデンシャルな要素も含んでいる。

この目標は、EIOPA 設立以来の活動を特徴付ける透明性のための継続的な努力によって補完され

ている。この観点から、できる限りの範囲内で、EIOPA は、演習の結果を開示する際に、2 要素からなるアプローチを維持し、参加者の同意に基づく貸借対照表ベースの指標のサブセットの開示を含む集約された情報に基づいているこのレポートを補完している。

3 | リスクの見通し

リスクの見通しについては、以下のように述べられている。

EIOPA、ECB 及び ESRB が実施した評価は、ストレステストにおいて欧州保険セクターに関連すると特定された金融安定性リスクの基礎となっている。2020 年末を出発点として、確認されたリスクは、パンデミックが経済活動に及ぼすマイナスの影響から生じており、民間セクターに広範な債務不履行が生じ、それが金融システムに及ぼすフィードバック効果が生じる可能性がある。また、ESRB の見解によれば、「金融危機が家計や企業に与える影響を緩和し、非金融部門から銀行システムへの波及を抑制するためには、幅広い政策支援策が不可欠であった。しかし、COVID-19 危機が長期化し、各国や経済セクターへの影響が深刻化すればするほど、資産の質の低下が顕著になる。」と考えるべきである。

2020 年に COVID-19 が被った未曾有の衝撃は、経済活動の突然の停止と短期経済見通しの急激な悪化につながった。これは部分的には必要なロックダウン措置が取られたことを反映していた。経済への影響を緩和するために、政府は一時休暇制度、法定融資停止、政府保証付き融資、直接補助金など多くの支援策を実施した。これらは、ECB や他の EU 中央銀行や監督当局による金融政策やプルデンシャル措置を補完するものであった。しかしながら、2020 年の EU 27 カ国(英国を除く EU 諸国)の実質 GDP は、前年比 6.2%の減少、2019 年 12 月から 2020 年 12 月までの失業率は 1%ポイント上昇するなど、これまでにない景気減速の影響を受けた。COVID-19 のパンデミックに起因する中期的な脆弱性は、低金利環境と相まって、2021 年の EU 全体を対象とした保険ストレステストでは主に悪影響を及ぼすシナリオとなっている。

4 | シナリオ

2021 年のストレステストでは、「より長期のより低い」金利環境での長期化する COVID-19 シナリオに焦点を当てている。

ESRB と協力して開発されたこのシナリオでは、COVID-19 のパンデミックの進展の可能性とその経済的影響についての継続的な懸念について詳しく説明している。これにより、世界中で信頼への悪影響が引き起こされ、経済の縮小が長引く可能性がある。このナラティブが、保険業界に深刻ではあるがもっともらしい「ダブルヒット」効果を生み出す一連の市場及び保険固有のショックに変換される。

シナリオの詳細については、[前回のレポート](#)等で報告しているので、ここでは概要を述べると、以下の通りとなっている。

- 2021 年のシナリオでは、保険会社のバランスシートが負債と資産に「ダブルヒット」することになる。リスクフリーレートが低下し、保険会社の負債が増加する一方で、リスクプレミアムは、株式や不動産を含む全ての資産の価格修正と同時に増加する。
- 保険固有のショックについては、生命保険では、死亡率の増加と契約の大量解約、損害保険では、健康保険を含むパンデミック関連の引受における保険金のインフレにストレスをかける。

- ・流動性テストでは、保険料の減少と再保険フローの減少でストレスをかける。
- ・資本ショックは 2020 年末の貸借対照表に即座に適用されるが、流動性分析ではショック前の流動性ポジションとイベントの 90 日後のポジションが考慮される。

なお、EIOPA は、市場ショックのシナリオはテール事象をテストするように設計されているが、その全体的な可能性は、相関が 0.35 から 0.82 に移動するにつれて、0.1%から 9.6%の範囲になると述べている。

5 | 方法論

2021 年ストレステストは、ミクロとマクロプルーデンスの観点から、対象範囲の企業の資本と流動性のポジションを評価するために、二重構造を設計している。

2 つのコンポーネントは、共通の説明、共通のシナリオ、共通の一連のショックに基づいているが、ショックの適用、データ収集、評価及び開示の観点から明確に分離されている。下記の図表が、2 つのコンポーネントの構造を示している。

資本コンポーネント

- ・市場ショックと保険ショックを組み合わせたシナリオ
- ・アプローチ:
 - ・瞬間的なショック
 - ・固定貸借対照表(事後対応型の経営行動無し)
 - ・貸借対照表(ガイド付きの事後対応型経営行動)
- ・メトリック:
 - ・貸借対照表ベース(負債に対する資産の超過額)
 - ・ソルベンシー・ベース(OF、SCR)

流動性コンポーネント

- ・アプローチ:
 - ・瞬間的なショック
 - ・固定貸借対照表(事後対応型の経営行動無し)
 - ・貸借対照表(ガイド付きの事後対応型経営行動)
 - ・スタイル設定されたフローベースの評価
 - ・ストックベースの評価
- ・タイムホライズン:
 - ・90日
- ・メトリック:
 - ・流動性の源泉／流動性需要

6 | アプローチ

2021 年のストレステストでは、資本と流動性の観点から、欧州保険業界の回復力を評価した。

(1)資本コンポーネント

不利な展開に対する保険業界の回復力を評価する共通の根拠としてソルベンシー II の枠組みに依存している。

ストレス前後のポジションの評価に使用される測定基準は、一般的に採用されている負債超過資産 (eAoL)、自己資本 (OF)、ソルベンシー資本要件 (SCR)、SCR 比率である。

参加者は、通常の年次ソルベンシー II 報告と同じアプローチとモデルを用いて、貸借対照表とソルベンシーのポジションを再計算するように求められた。

(2)流動性コンポーネント

流動性コンポーネントのストレステストの方法論的原則について EIOPA が発行したペーパーで提示された流動性ニーズと流動性ソースのハイブリッド・ストック／フロー評価に基づいている。

参加者は、2021 年の第 1 四半期をカバーし、流動性ソースと流動性ニーズの完全なスタックを考慮して、90 日間の期間にわたって計算されたベースラインとストレス後の流動性状況を提供するように求められた。流動性ポジションの評価は、流動性資産の利用可能性に対する参加者のネットフロー

ポジションの持続可能性に基づいている。

なお、ストレス後の資本及び流動性ポジションの計算は、次の 2 つの仮定の下で行われた。

①固定貸借対照表

参加企業は、(再建計画の文脈でとられるリスク軽減戦略及び将来の行動等) 基準日以降の将来の行動に依存する措置、行動又はリスク軽減戦略を考慮に入れてはならない。埋め込まれた経営行動のみが許可される。

②制約付き貸借対照表

グループによって採用されたガバナンス・フレームワークの一部である一連のリアクティブな経営行動を実施できる。実施される行動は、現実的で、比例的かる不利な市場条件の下で実行可能である必要があり、その効果は、評価の期間内に具体化する必要がある。評価期間中はストレス条件が適用されるため、ストレス後の市場環境の厳しさをより適切に反映するために、特定の市場ベースの業務が制限される。

7 | 参加グループ会社の状況

2021 年の演習は、欧州の(再) 保険グループを対象としている。参加企業の選択は、主に規模、EU 全体の市場カバレッジ、実施される事業分野(生命保険及び損害保険事業)、及び代表される管轄区域の数に基づいている。現地市場のカバレッジは、第 2 段階で考慮された。

NCAs (National Competent Authorities : 国家監督当局) と協力して定義されたターゲットサンプルは、20 か国からの 43 の欧州保険グループと 1 つの単独会社で、ソルベンシー II の総資産に基づいて EU 全体の市場の 75% をカバーしている。

また、流動性コンポーネントは、資本コンポーネントと同じエンティティを対象としている。しかし、グループ・レベルでの流動性ポジションの評価と連結のための一般的に採用されている枠組みが存在しないため、参加グループは、グループ連結の範囲内にある欧州保険単独事業体の大部分について流動性情報を提供するように要請された。グループ総資産の 80% という定義済み臨界値に基づいて、117 の単体が特定され、分析に含められた。

2020 年末時点の参加者 44 社の総資産は約 6.51 兆ユーロで、資産構成は、債券(45.5%)、国債(26.4%)、社債(19.1%)となっている。負債のうち、生命保険(ユニバーサルライフ、インデックスライフ除き) 技術的準備金(59.4%)、ユニットリンク保険技術的準備金(19.5%)、損害保険技術的準備金(約 7.4%)で、技術的準備金の加重平均 Macaulay デュレーションは、生命保険(ユニバーサルライフ、インデックスライフ除き)で 14.4 年、損害保険で 4.3 年となっている。

参加者のうち 27 社が標準式、15 社が部分内部モデル、2 社完全内部モデルを使用している。ただし、総資産ベースの比率は、それぞれ 43.2%、49.7%、7.1%となっている。

34 社が LTG(長期保証)措置、3 社がマッチング調整、19 社が技術的準備金に関する移行措置、1 社がリスクフリーレートの移行措置を使用している。

なお、EIOPA は、今回のストレステストについて、個々の保険会社の結果数値を開示することは許可されていないが、8 社が開示に同意している。

(参考) 2021 年保険ストレステスト 参加グループ・会社

Participant	Domicile	Participant	Domicile
Vienna Insurance Group	Austria	The Ethniki Hellenic	Greece
Ageas	Belgium	Sjova-Almennar	Iceland
KBC Insurance Group	Belgium	Assicurazioni Generali	Italy
Croatia Osiguranje	Croatia	UNIPOL Group	Italy
PFA Pension	Denmark	Poste Vita Group	Italy
Forsikringselskabet Danica	Denmark	Intesa Sanpaolo Vita	Italy
Sampo plc	Finland	MetLife EU Holding	Ireland
OP Osuuskunta	Finland	Lombard International	Luxembourg
AXA	France	QIC Europe Limited	Malta
CNP Assurances	France	Aegon	Netherlands
BNP Paribas Cardif	France	NN Group	Netherlands
Crédit Agricole Assurances	France	Achmea	Netherlands
COVEA	France	Kommunal Landspensjonskasse	Norway
GROUPAMA	France	Gjensidige Forsikring	Norway
Groupe des Assurances du Credit Mutuel	France	Storebrand	Norway
Naïxix Assurances	France	Powszechny Zakład Ubezpieczeń	Poland
Sogecap	France	LongRun	Portugal
Münchener Rückversicherungs	Germany	Skupina Triglav	Slovenia
Allianz SE	Germany	MAPFRE	Spain
Alte Leipziger - Hallesche	Germany	VIDACAIXA S.A.U. de Seguros y Reaseguros	Spain
HDI Haftpflichtverband der Deutschen Industrie	Germany	Nordea Life Holding	Sweden
R+V Versicherung	Germany	Skandia Försäkringsgrupp	Sweden

8 | データ品質保証

提出されたストレステストの結果に対して、EIOPA は、これまでの演習で得られた経験を基に、受け取った情報を検証するために、以下の 3 段階のアプローチを採用している。

- ①第 1 段階：ストレス後のポジションを計算する際に参加者が取るアプローチ、適用される簡素化と近似、制約付き貸借対照表アプローチで想定されるリアクティブ経営行動に焦点を当てた事前検証
- ②第 2 段階：ローカル検証：各 NCA によって、管轄区域内の参加グループによる所定のショックの適切な適用について行われる。この評価は、各国監督当局が参加グループと緊密に連絡を取り、十分な知識を持っていることから、有益となる。
- ③第 3 段階：中央検証、プロセスは、EIOPA 職員及び関連する NCAs から選ばれた専門家によって評価された完全なサンプルデータベースを含む段階があり、国レベルで行われた評価を補完する。

9 | 今回の報告書の構成

今回の報告書は、エグゼクティブサマリー (Executive Summary) に続いて、以下の 5 章から構成されている。

- 第 1 章 導入 (リスクの見通しと方法論についての説明等)
- 第 2 章 参加グループ・会社の特徴
- 第 3 章 主な調査結果
- 第 4 章 結論と次のステップ
- 第 5 章 付録

このうちの第3章については、資本コンポーネントと流動性コンポーネントの2つに分けて、資本コンポーネントでは、①ソルベンシー比率、②ソルベンシー資本要件、③自己資本、④負債超過資産額の状況、⑤リアクティブな経営行動と潜在的なマクロプルデンシャルへの影響、流動性では、①サステナビリティ、②フロー、についてベースラインからストレス後の条件への関連指標の変化について報告している。前者はソルベンシーⅡの枠組みの指標とツールに依存しているのに対して、後者は技術仕様書や EIOPA 関連の出版物で提案されている指標について述べている。

3—今回の報告書の結果の概要

この章では、主として、プレス・リリース資料及び報告書のエグゼクティブサマリー（Executive Summary）等に基づいて、今回の報告書の結果の概要を説明する。

1 | 前提と全体概要

欧州の保険セクターは、パンデミック危機の間、十分な回復力を示し、パンデミックの大流行による強い経済的影響があったにもかかわらず、2020 年末に報告されたソルベンシー比率 217.9%に反映された高い資本水準で、この演習に取り組んだが、この強固なソルベンシー比率が、セクターにとって厳しい試練であることが判明した不利なダブルヒットシナリオの影響を参加者が適切に吸収するために必要なバッファであったことが確認されている。

2 | 資本コンポーネントへの影響

（単位：億ユーロ）

	①ベースライン値	固定貸借対照表		制約付き貸借対照表	
		②値	③ ①と②の変化	④値	⑤ ①と④の変化
ソルベンシー比率	217.9%	125.7%	▲92.1 pp	139.3%	▲78.6 pp
ソルベンシー資本要件	2,911	3,116	7.1%	300	3.1%
適格自己資本	6,341	3,918	▲38.2%	4,179	▲34.1%
資産対負債比率	110.0%	105.9%	▲4.1 pp	106.2%	▲3.8 pp
負債超資産	5,902	3,258	▲44.8%	3,408	▲42.3%

(1)固定貸借対照表（アプローチ）

ストレス後のソルベンシー比率は 217.9%から 125.7%へと 92.1pp（パーセントポイント）低下する。これは、ソルベンシー資本要件が 7.1%上昇したのに対して、適格自己資本が 38.2%減少したことによる。9 社が規制上の臨界値の 100%未満の値を報告したが、いずれの参加者も 100%を下回る資産負債比率を報告していない。これにより、厳しいシナリオの下でも、保険契約者への約束を果たすことができることが示されている。

(2)制約付き貸借対照表（アプローチ）

19 社が、利益の留保、資産配分のリスク軽減、資本の増加といった一連のリアクティブな経営行動を適用することを選択した。これらの措置は、主に貸借対照表の状況よりもソルベンシーの状況に影響

響を与えた。

少数の参加者のみがリアクティブな経営行動を適用しているにもかかわらず、ソルベンシー比率は、固定貸借対照表の計算と比較して、全体として（125.7%から 139.3%へ）13.6pp 改善している。固定貸借対照表の下でストレス後のソルベンシー比率が 100%を下回っていると報告している 9 社のうち 7 社が、リアクティブな管理措置を適用することで、規制上の臨界値を上回るソルベンシー比率を報告している。

(3)長期保障措置や移行措置の影響

この演習は、ベースライン・シナリオと不利なシナリオの両方において、長期保証と移行措置の継続的な関連性を証明している。

	ベースライン	固定貸借対照表	制約付き貸借対照表
ソルベンシー比率（移行措置 & LTG措置有）	217.9%	125.7%	139.3%
ソルベンシー比率（移行措置無）	204.6%	111.0%	123.8%
ソルベンシー比率（移行措置 & LTG措置無）	173.3%	47.2%	55.1%

長期保証と移行措置の影響を除去すると、合計ソルベンシー率は、ベースラインの 173.3%から固定貸借対照表で 47.2%、制約付き貸借対照表で 55.1%に低下する。固定貸借対照表では 31 の会社が、制約付き貸借対照表では 27 の会社が 100%未満のソルベンシー比率を報告している。また、固定貸借対照表では 8 社、制約付き貸借対照表では 7 社が 100%未満の資産負債比率を報告している。

長期保証措置は、ソルベンシーⅡの恒久的な要素であるが、移行措置はソルベンシーⅠからソルベンシーⅡへの移行を円滑化するために暫定的に導入されており、その効果は 2032 年までに段階的に廃止されることになっている。

移行措置のみを除くと、ソルベンシー比率はベースラインの 204.6%から、固定貸借対照表では 111.0%、制約付き貸借対照表では 123.8%に低下し、それぞれで 15 社と 10 社が 100%未満の値を報告している。2 社が、固定及び制約付きの両方で、100%未満の資産負債比率を報告している。

(4)まとめ

全体的に見て、資本コンポーネントは、主な脆弱性が市場ショック、特にリスクフリーレートとリスクプレミアムのデカップリングの影響から生じていることが確認されている。また、欧州の保険業界は、限られたケースを除いて、このような市場の厳しい進展に対応できることが、リアクティブな経営活動を通じて証明されている。しかし、演習の資本コンポーネントは、市場の一部が依然として（2032 年までに段階的に廃止される）移行措置に依存していることも示している。

3 | 流動性コンポーネント

全体として、流動性ポジションは、ストレス後の状況における資本やソルベンシーのポジションよりも、保険セクターにとって重要な懸念材料ではない。それにもかかわらず、シナリオに規定されている大量解約ショックは、全体として保有現金のみではカバーできない重大な流出を生じさせる（101 億ユーロの負の正味流動性ポジション）。しかし、単独会社が保有する多額の流動資産は、報告された流出を補うことができる。マイナスのネット流動性ポジションの 80%以上が、制約付き貸借対照表の

下で、ポジティブなネット流動性ポジション（114 億ユーロ）を回復するために、リアクティブな経営行動を適用した 15 の単独会社に集中している。

（単位：ユーロ）

	①ベースライン値	固定貸借対照表		制約付き貸借対照表	
		②値	③ ①と②の変化	④値	⑤ ①と④の変化
ネット流動性ポジション （キャッシュ＋ネットフロー）	811億	▲101億	▲112.5%	114億	▲85.9%
サステナビリティ （キャッシュ＋ネットフロー＋流動性資産）	2.8兆	2.2兆	▲5,387億	2.2兆	▲5,258億

流動性コンポーネントに適用されるリアクティブな経営行動は、主に流動資産の売却からなる。販売戦略は、ベースラインと比較して流動性コンポーネントの資産配分を変更しない傾向がある。

4 | マクロブルーデンスの側面

演習のマクロブルーデンスの側面の焦点は、リアクティブな経営行動の適用によって引き起こされる保険会社の資産の総再配分のような潜在的な集団行動を特定することにある。

資本支出においては、資産配分においてリスク削減戦略を適用しているグループの数は 8 社と限られているが、社債（▲474 億ユーロ）、株式（▲47 億ユーロ）から国債（＋566 億ユーロ）へのシフトが見られる。これらの金額は合計では限定的であるが、社債ポートフォリオでは▲15.1%、株式ポートフォリオでは▲16.8%、ソブリン債ポートフォリオでは＋13.9%という固定・制約付き貸借対照表アプローチの間の有意な相対的变化がある。より多くの保険会社が同じ行動を資産の再配分に適用する場合、債券市場のフットプリントが潜在的に顕在化する可能性がある。

5 | EIOPA 会長のコメント

EIOPA の Petra Hielkema 会長は、「ストレステストは、欧州の保険会社が過酷な経済状況の中で彼らの財務の健全性を維持できることを示している。保険契約者に対する保険会社のコミットメントが危うくなるようなストレス後の資産ポジションを参加者が報告しなかったことを嬉しく思う。ただし、これらの肯定的な結果の表面下には、2032 年までに段階的に廃止される移行措置への依存度がしばしば高いことがある。今後数か月のうちに、演習で明らかにされた脆弱性に注目することになるだろう。また、個々の結果の開示が法的要件になることを検討するよう議員に呼びかけるつもりである。」と述べた。

6 | 次のステップ

2021 年の保険ストレステストの演習は、監督当局に、厳しいがもってもらいたいシナリオの下での欧州の保険会社の資本及び流動性ポジションに関する貴重な洞察を与えている。また、明らかになった脆弱性に対処するために、グループの監督者と参加者の間のフォローアップ対話の有用な基盤を提供する。

EIOPA と各国監督当局は、セクターのリスクと脆弱性をより深く理解するために、結果をさらに分析する。EIOPA はまた、演習で特定された関連する懸念事項に関する推奨事項を発行する必要性を評

価する。

4—まとめ

以上、今回のレポートでは、EIOPA による 2021 年保険ストレステストとそれに関する今回の報告書の概要について報告してきた。

今回のストレステストは、COVID-19 の危機を踏まえての必要な調整等をシナリオに反映したものとなっている。結果として、基本的には大きな問題は指摘されていないが、いくつかの課題も示された形になっている。

次回以降のレポートでは、今回の報告書の第 3 章に記載されているストレステストの結果の詳細等について報告する。

以 上